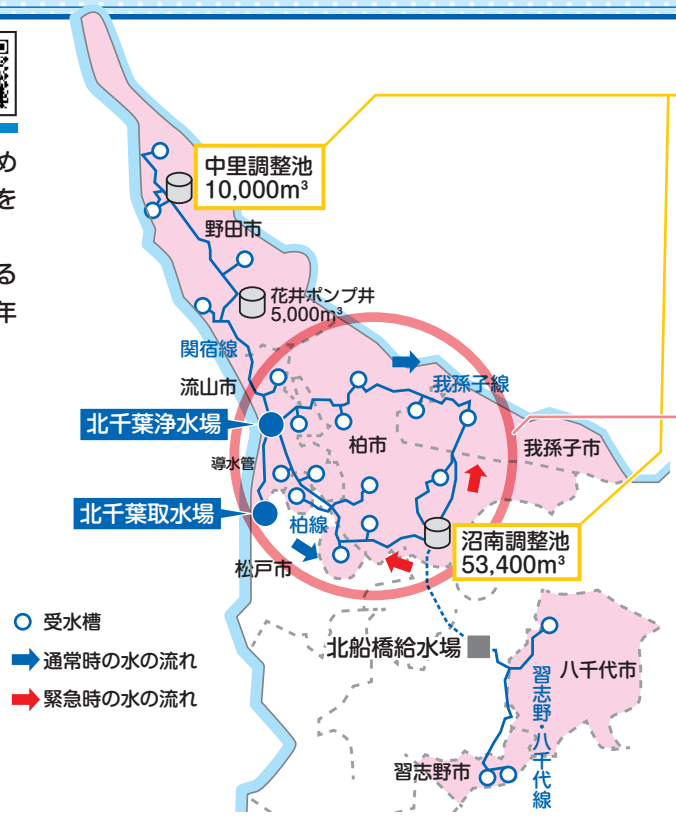
管路機能の維持と安定給水の確保

導・送水管路の更新

導水管とは、江戸川から取水した原水を浄水場へ送るための管です。取水場と浄水場を結ぶ新たな導水管の布設工事を令和元年度から開始し、令和7年度から運用開始予定です。

送水管とは、浄水場から構成団体の受水槽へ水道水を送るための管です。近年布設した管路を除く約89kmを約40年かけて計画的に更新していきます。

管の接合



調整池の活用

送水管路途上に、水道水を貯留することができる調整池を設置することで、減・断水の影響を減らすことができます。沼南調整池は約22万人※が1日に使用する量を貯留しています。

※家庭での一人あたりの使用水量約242L（千葉県平均）
出典：水のはなし2023（千葉県総合企画部水政課）

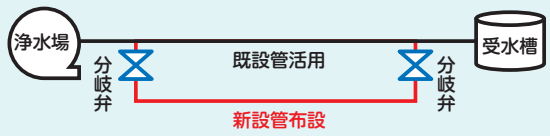
送水管路のループ化

送水管路を環状（ループ）とすることで、管路の途中で事故が起こっても逆方向（赤矢印）からの送水を行うことが可能です。

沼南調整池内部

管路更新の特徴　管路の更新時には、地震に強い耐震管を採用します。また、既設管と並行して新設管を布設することで、片方の管が破損した場合でも、もう一方の管を使用し、安定的に送水を継続できる仕組みとなっています。

■管路更新模式図



災害支援体制の構築

企業団では、災害時の相互応援体制の確認と対応能力の向上を図ることを目的とした合同訓練を、構成団体※と共に毎年実施しています。

令和5年度の訓練では、構成団体の浄水場が停止し、減・断水が発生したという想定のもと、情報伝達や給水車による応急給水等の訓練を実施しました。

今後も、事業体間の連携を強化し、より迅速かつ効果的な災害支援ができる体制の構築に努めてまいります。

※構成団体…千葉県、松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、習志野市及び八千代市

応急給水栓から給水車への充水

給水袋への充水

家庭でできる“水”の備え

飲料水の備蓄について

消費しながら備える「ローリングストック法」

ペットボトル水等を少し多めに買い置きしておき、古いものから消費し、消費した分を新しく買い足すことで、常に一定量を備蓄しておくことができます。

水道水のくみ置き

清潔な容器に空気が残らないよう容器の口までいっぱいに水道水を入れて、しっかり密閉します。直射日光を避け常温で3日間、冷蔵庫で7日間程度保存することが可能です。保存期間を過ぎた水は、飲用以外にお使いください。（洗濯や掃除等）

※浄水器を通した水や沸騰した水は、塩素による消毒効果がないため毎日交換してください。

応急給水について

応急給水拠点の確認

応急給水は、各自治体が主体となって実施します。応急給水拠点とそこまでの経路を、あらかじめ確認しておきましょう。応急給水拠点は、お住まいの市のホームページ等から確認できます。

容器や台車の用意

災害時には、給水袋などの水を入れる容器が十分に確保できない可能性があります。ポリタンクやペットボトルなど水を入れる容器や、運搬するための台車などを、あらかじめ準備しておきましょう。

Lifehack!

給水袋やポリタンクがない場合は、二重にしたビニール袋に水を入れ、ダンボール箱や買い物かご、リュック等に入れて運ぶことができます。